

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	11 月	5 日	記入者	中西 環
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	初瀬のイチヨウの巨樹				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1974年(昭和49)3月26日				
所在地	桜井市大字初瀬 素盞雄神社境内				
所有者 管理者	川上区				
員数	1株				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) イチヨウ			(樹齢)	
案内板の状況	イチヨウ樹木前に奈良県教育委員会の説明板あり				
公開	見学自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	特に無し				
今後の課題	平成16年度急傾斜地崩壊対策事業をおこなった県のプレート板が神社付近にあったので当面は傾斜崩壊などの危険性はないようにも思うが、昨今の異常気象なども考慮のうえ、現状維持を継続していけるよう見守っていく必要はある。				
その他 (由緒など)	素盞雄神社境内に植わる雄株のイチヨウ。説明板によると樹高約40メートル、枝張り南北約23メートル東西約21メートル、目通り周囲7.15メートル。イチヨウの巨樹としては県下最大。神社由緒板によると神社の始まりは948年(天暦2)、神殿大夫武麿が菅原道真の霊を招いて興喜天満宮を創建、興喜山(大泊瀬山又は天神山とも)は天照大神君臨の山であり、その弟神であるスサノオミコトの霊を鎮めるために社殿を構えたとある。				
コメント	樹勢も良好で、しめ縄もきちんと張られ丁寧に祀られていることがわかる。生きている化石ともいわれるイチヨウは世界最古の現生樹種であり国際自然保護連合の絶滅危惧種のひとつと聞く。初瀬のイチヨウの巨樹もいつ頃から植わっているのか不明だが、神社の創建からみても、おそらく1000年ほどはこの地域のすべてを見通してきた主のように思えた。今もその勢いが衰えない姿に圧巻だ。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	11 月	5 日	記入者	中西 環
調査者名	石井	中西	橋詰		

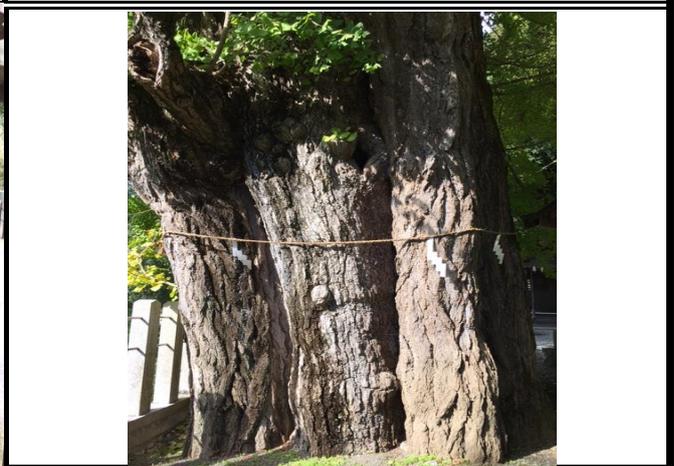
文化財名	初瀬のイチヨウの巨樹
------	------------

西側(初瀬寺境内駐車場より)	初瀬素盞雄神社参道より
----------------	-------------



県教育委員会説明板(拡大)

幹回りにしめ縄が張られている



東側より撮影

県急傾斜地崩壊対策事業のプレート

